

# 薩摩の軌跡

Satsuma's locus

150年を振り返って

慶応3年～明治時代の主な出来事

## 第二回 慶応3年～明治時代まで

1867  
(慶応3年)

鹿児島紡績所  
異人館建設

1870  
(明治3年)

本木さん  
活版印刷の企業化

1871  
(明治4年)

廃藩置県

1877  
(明治10年)

西南戦争

1878  
(明治11年)

大久保利通暗殺

1882  
(明治15年)

鹿児島新聞  
第一号を発行

1889  
(明治22年)

大日本帝国  
憲法発布

1890  
(明治23年)

東京朝日新聞が  
マリノニ式輪転印刷機を導入

1895  
(明治28年)

博文館が雑誌  
『太陽』を創刊

1900  
(明治33年)

初めての求人広告

1912  
(明治45年)

明治天皇崩御  
大正天皇踐祚  
鹿児島で初めて  
路面電車が登場

来年2018年に明治維新から150年という節目を迎えます。我等が薩摩藩はその改革に大きく貢献し、現代日本の礎となったのではないのでしょうか？

第二回となる今回は、明治の終わりまでを年表で振り返りつつ、私たち映広グループの業務と関わりがある出来事にスポットを当てました。

### ● 1867 (慶応3年) 旧鹿児島紡績所技師館 (異人館)

慶応3(1867)年、薩摩藩によって、日本最初の洋式紡績工場である鹿児島紡績所が建設された際に、その工場の指導者として招へいたイギリス人技師イー・ホームら7名の宿舎として建築されたものです。平成27(2015)年7月には「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産の一つとして、世界文化遺産に登録されました。

建物は、明治15(1882)年に鶴丸城跡地にできた県立鹿児島中学校の本館として移転され、教室として利用されていたものを、昭和11(1936)年に現在地に再移築された。その後、昭和56(1981)年に、内・外装の修理、平成21年(2009)年～平成22年に耐震補強工事、平成23年に展示整備を行い、現在に至っています。

して利用されていたものを、昭和11(1936)年に現在地に再移築された。その後、昭和56(1981)年に、内・外装の修理、平成21年(2009)年～平成22年に耐震補強工事、平成23年に展示整備を行い、現在に至っています。



旧鹿児島紡績所 技師館(異人館)  
©K.P.V.B

### ● 1870 (明治3年) ～ 印刷の発達



※活版印刷とは、鉛で出来た文字を一字ずつ組み合わせ、出っ張っている部分にインクをつけ、紙に転写する印刷技術です。

日本の印刷発達で近代活版印刷術の創始者本木昌造は、明治3(1870)年 長崎に日本初の活版印刷の企業化を図りました。薩摩藩主28代島津齊彬公は、日本を近代国家に生まれ変わらせなければならないと考え、教育・文化・技術水準の向上の為、多くの本と書籍を安価で流布できる様に西洋の活版印刷の導入を図り江戸の木版師 木村嘉平に鉛製鋳造活字一式の製作を依頼。木村嘉平は11年かけ元治元年(1864)独力で金属活字の鋳造を完成。本木活字の6年前に完成させましたが、齊彬公逝去により実用化には至りませんでした。嘉平の偉業は、平成10年に「木村嘉平関係資料」として国の重要文化財に指定されています。

### ● 1890 (明治23年) ～ 明治維新と広告について

明治時代には、ニューメディアとしての新聞・雑誌が登場し、マスメディアを用いた近代的な広告活動が始まりました。特に西洋から導入された活版印刷によって安価で大量に印刷される新聞は、多彩な情報を広く・効率よく伝達できる広告メディアとして中心的な地位を獲得し、新聞広告を取り次ぐ広告代理業の発達を促しました。

雑誌も明治後半にはジャンルの多様化が進み、部数が拡大しました。博文館が明治28(1895)年に創刊した雑誌『太陽』は雑誌広告の先鞭をつけたといわれています。また、色鮮やかなポスターが登場したのもこの頃です。

### ● 1900 (明治33年) 初めての求人広告

1900年、ロンドンの新聞の片隅にアーネスト・シャクルトンはある広告を掲載した。その広告の文面が冒頭の一文です。(もちろん、原文は英語ですが)とても小さな広告だったのにも関わらず、その内容(文面)のインパクトから多くの話題を集め、その過酷な条件にも関わらず約5000人から応募があったそうです。1914年の人類初の南極大陸横断成功へ向けた隊員募集。これが世界で初めての「求人広告」と言われています。



男子求む。(探検隊員求む)。  
至難の旅。  
わずかな報酬。  
極寒。  
暗黒の月日。  
絶えざる危険。  
生還の保証は無し。  
成功の暁には  
名誉と賞賛を得る。

大正元年(1912年)、鹿児島に初めて路面電車が登場しました。鹿児島電気軌道株式会社が、「武之橋～谷山」間に開業したのです。それから100余年、開業当時の面影を探してみました。電車が走るためには、レールが必要です。交通局には、開業の年である1912年に製造されたレールが現在もいくつか残っています。これらのレールは、「官営八幡製鉄所」、「カーネギースチール社」、「イリノイススチール社」が製造したものです。

## 新しいステージへ果敢に挑む、映広グループ

株式会社 鹿児島映広  
tel.099-222-4444

南日本出版 株式会社  
tel.099-222-8611

株式会社 映広  
tel.099-222-4446

LEAP出版 株式会社  
tel.099-227-0890